

# とちぎ森林創生ビジョン

～とちぎの元気な森を100年先の未来へ～

## 令和6年度の実績について

計画期間：令和3（2021）年度～令和7（2025）年度

令和7（2025）年11月  
栃木県環境森林部



# 目次

1	総合評価	3
2	各指標の状況	4
	重点施策1 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業の実現”～	4
	重点施策2 森林の公益的機能の高度発揮 ～”災害に強い森づくり”の推進～	6
	重点施策3 森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	8
	共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	9
3	参考	10
	まとめ	



# 1 総合評価

- ・ 令和 6 (2024)年度においては、17の指標のうち、  
 年度目標を達成 (◎) 6 指標  
 年度目標の80%以上の進捗 (○) 5 指標  
 年度目標の50%以上80%未満の進捗 (△) 6 指標  
 年度目標の50%未満の進捗 (▲) 0 指標

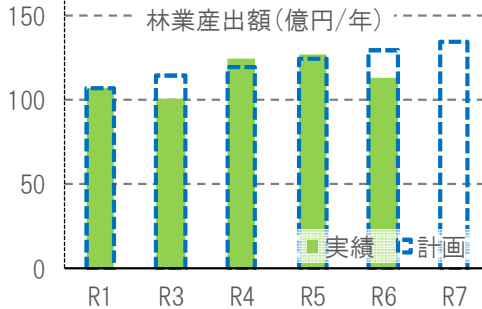
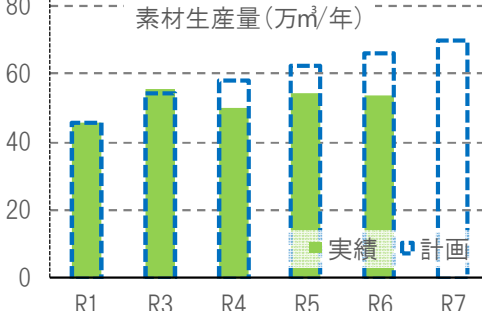
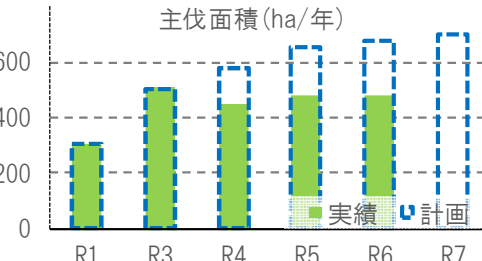
	施策名	指標数				
			◎	○	△	▲
重点施策 1	林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～	7	1 (2)	3 (3)	3 (2)	0 (0)
重点施策 2	森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	6	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
重点施策 3	森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	2	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
共通施策	未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	2	1 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (0)
計		17	6 (7)	5 (6)	6 (4)	0 (0)

※ ( ) は、昨年度の数値

## 2 各指標の状況

### 重点施策 1 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～



指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率						目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)		
1	<b>林業産出額</b> ※統計年度の関係から、各評価年度の実績値は1年度前の数値 出典：農林水産省 林業算出額	107.1	115	120	125	130	135	135		
			101.3	125.0	127.4	113.8				
		(H30(2018))	88% ○	104% ◎	102% ◎	88% ○		(R6(2024))		
		新設住宅着工戸数の減少に伴い木材需要が減少したことに加え、食品表示ルールの改正に伴い、しいたけ生産者の一部が生産を休止したこと等により産出額は減少した。								
2	<b>素材生産量 (民有林)</b> 出典：農林水産省 木材統計調査	45.3	54	58	62	66	70	70		
			55.5	49.9	54.5	53.7				
			103% ◎	86% ○	88% ○	81% ○				
		累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。								
3	<b>主伐面積</b> 出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査	302	500	575	650	680	700	700		
			513	449	480	479				
			103% ◎	78% △	74% △	70% △				
		累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。								

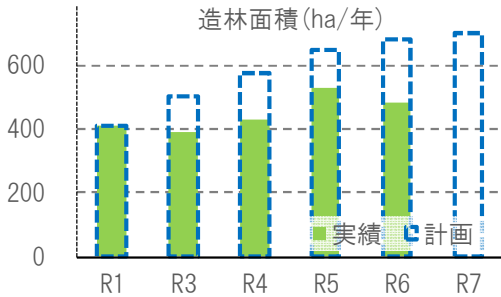
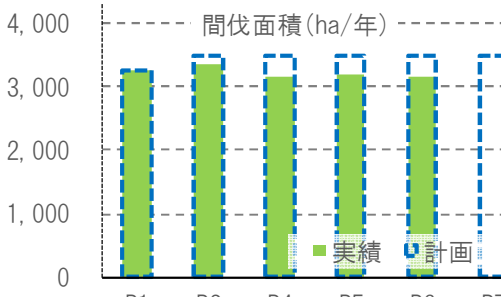
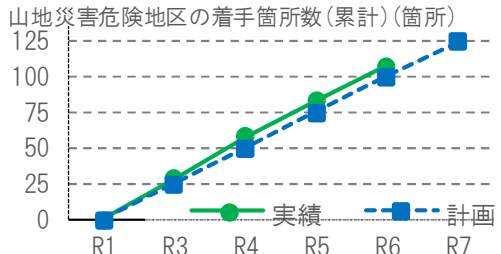
2 各指標の状況

指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率					目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)	
4	協定取引量 (万㎡/年)  出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査	3. 6	4. 7 5. 6 119% ◎	5. 3 5. 4 102% ◎	5. 9 6. 0 102% ◎	6. 4 6. 6 103% ◎	7. 0	7. 0	
		現場からの直送取引量が増加したため、一定の成果が得られた。							
5	製材品出荷量 (国産材) (万㎡/年)  出典：農林水産省 木材統計調査	28. 7	31 28. 8 93% ○	32 25. 3 79% △	33 26. 9 82% ○	34 21. 2 62% △	35	35	
		・全国的な建築着工数減の影響を受け、出荷量が減少した。 ・非住宅建築物の木造化や、外材使用率が高い木造住宅の横架材をとちぎ材へシフトさせることにより、出荷量を回復させていく。							
6	人工乾燥材 出荷量 (国産材) (万㎡/年)  出典：農林水産省 木材統計調査	20. 5	22 23. 7 108% ◎	23 18. 5 80% ○	24 23. 2 97% ○	24 16. 8 70% △	25	25	
		・全国的な建築着工数減の影響を受け、出荷量が減少した。 ・非住宅建築物の木造化や、外材使用率が高い木造住宅の横架材をとちぎ材へシフトさせることにより、出荷量を回復させていく。							
7	きのこ生産量 (t/年)  出典：農林水産省 特用林産物生産統計調査	3, 905	4, 003 3, 909 98% ○	4, 053 3, 969 98% ○	4, 102 3, 193 78% △	4, 151 3, 922 94% ○	4, 200	4, 200	
		ぶなしめじの大規模工場の稼働により生産量が増加し、概ね計画通りであったものの、高齢者の生産中止等の影響によりしいたけの生産量は減少した。							

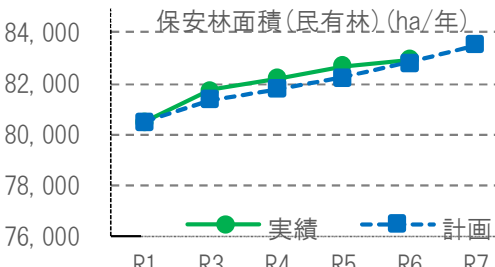
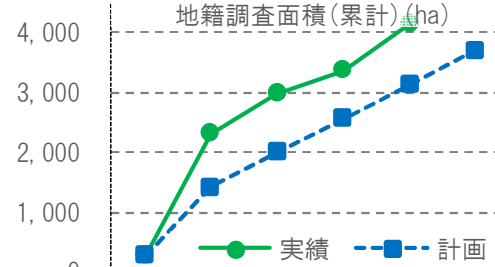
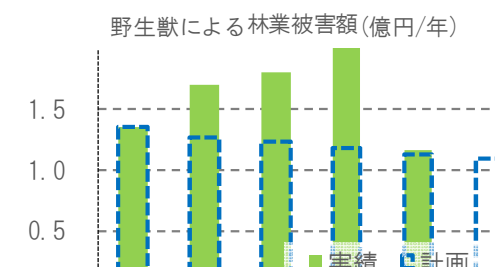
## 2 各指標の状況

### 重点施策2 森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～



指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率						目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)		
8	造林面積 (ha/年)	408	500	575	650	680	700	700		
		387	431	528	480					
		77% △	75% △	81% ○	71% △					
		造林面積は主伐実績に呼応して推移しており、主伐面積が減少した結果、目標に届かなかった。								
出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査										
9	間伐面積 (ha/年)	3, 254	3, 500	3, 500	3, 500	3, 500	3, 500	3, 500		
		3, 357	3, 177	3, 182	3, 164					
		96% ○	91% ○	91% ○	90% ○					
		累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。								
出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査										
10	山地災害危険地区 の着手箇所数 (累計)	－	25	50	75	100	125	125		
		29	58	83	108					
		116% ◎	116% ◎	111% ◎	108% ◎					
		国の防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき、治山事業を着実に執行し、目標を上回る実績となった。								
出典：栃木県環境森林部 森林整備課調査										

## 2 各指標の状況

指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率						目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R1(2019)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R7(2025)		
11	保安林面積 (民有林)  出典：栃木県環境森林部 森林整備課調査	80,510  (ha)	81,380	81,760	82,250	82,810	83,500	83,500		
			81,718	82,180	82,684	82,915				
			100% ◎	101% ◎	101% ◎	100% ◎				
		大規模な保安林指定が進んだため、実績は目標を上回った。								
12	森林組合による 地籍調査面積 (累計)  出典：栃木県環境森林部 森林整備課調査	278  (ha)	1,420	1,990	2,560	3,130	3,700	3700		
			2,304	2,983	3,370	4,150				
			162% ◎	150% ◎	132% ◎	133% ◎				
		航空レーザ計測等リモートセンシングデータを活用した地籍調査により、山間部の境界確認等の効率化、迅速化が図られたことで実績は目標を上回った。								
13	野生獣による 林業被害額  出典：栃木県環境森林部 森林整備課調査	1.35  (億円/年)	1.27	1.23	1.18	1.14	1.10	1.10		
			1.70	1.81	2.30	1.17				
			△	△	△	○				
		林業被害軽減のため、特にシカの捕獲強化や食害対策の取組により、前年度と比べて被害面積、被害額ともに減少した。								



## 2 各指標の状況

### 重点施策3 森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～



指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率						目標値	グラフ
		R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)		
14	新規就業者数 (人/5年) ※統計年度の関係から、各評価年度 の実績値は1年度前の数値 出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査	245	250	253	255	258	260	260		
			250	267	278	281				
		100% ◎	106% ◎	109% ◎	109% ◎					
		高校生を対象とした集団説明会や県内外での就業セミナーの開催による林業の魅力発信と併せて、就労環境の改善を図るため、林業経営体の経営者向けの研修等に取り組んだ結果、目標を上回った。								
15	里山林整備面積 (第2期県民税事業の 新規累計) (ha) 出典：栃木県環境森林部 森林整備課調査	403	664	794	925	1,055	1,185	1,185		
			584	683	723	780				
		88% ○	86% ○	78% △	74% △					
		森づくり活動団体の担い手の高齢化や後継者不足等の影響を受け、新規の取組実績が伸び悩んでいるものの、前年度と比べて整備面積は増加した。								



## 2 各指標の状況

### 共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～



指標		現状値	年度目標値/実績値/年度進捗率					目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)	
16	労働生産性 （主伐） ※モデル地区内 における実績  出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査	10	15	20	25	30	30	30	
		(H30(2018))	87% ○	85% ○	80% ○	50% △			
		新たな機械（架線集材システム）の操作等の習得に時間を要したため労働生産性は低下したが、ラジコン操作によって労働安全性の向上や労働負荷の軽減を図ることができた。							
17	労働災害発生率 ※モデル地区内 における実績  出典：栃木県環境森林部 林業木材産業課調査	21	16	11	5	0	0	0	
			0 ◎	0 ◎	0 ◎	0 ◎			
		未来技術の導入により、検証のモデル地区では、従来の人力作業から機械作業に転換されたことで作業の安全性が向上し、労働災害は発生していない。							

参考：まとめ

施 策	NO	指 標	R6 評価	説 明
<b>重点施策 1</b> 林業・木材産業の 産業力強化 ～“稼げる林業”の実現”～	1	林業産出額	○	新設住宅着工戸数の減少に伴い木材需要が減少したことに加え、食品表示ルールの改正に伴い、しいたけ生産者の一部が生産を休止したこと等により産出額は減少した。
	2	素材生産量	○	累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。
	3	主伐面積	△	累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。
	4	協定取引量	◎	現場からの直送取引量が増加したため、一定の成果が得られた。
	5	製材品出荷量	△	・全国的な建築着工数減の影響を受け、出荷量が減少した。 ・非住宅建築物の木造化や、外材使用率が高い木造住宅の横架材をとちぎ材へシフトさせることにより、出荷量を回復させていく。
	6	人工乾燥材出荷量	△	・全国的な建築着工数減の影響を受け、出荷量が減少した。 ・非住宅建築物の木造化や、外材使用率が高い木造住宅の横架材をとちぎ材へシフトさせることにより、出荷量を回復させていく。
	7	きのこ生産量	○	ぶなしめじの大規模工場の稼働により生産量が増加し、概ね計画通りであったものの、高齢者の生産中止等の影響によりしいたけの生産量は減少した。
<b>重点施策 2</b> 森林の公益的機能の 高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	8	造林面積	△	造林面積は主伐実績に呼応して推移しており、主伐面積が減少した結果、目標に届かなかった。
	9	間伐面積	○	累積する保育作業等に労働力が割かれたことから、目標に届かなかったものの、昨年度と同程度の水準となった。
	10	山地災害危険地区の着手箇所数	◎	国の防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき、治山事業を着実に執行し、目標を上回る実績となった。
	11	保安林面積	◎	大規模な保安林指定が進んだため、実績は目標を上回った。
	12	森林組合による地籍調査面積	◎	航空レーザ計測等リモートセンシングデータを活用した地籍調査により、山間部の境界確認等の効率化、迅速化が図られたことで実績は目標を上回った。
	13	野生獣による林業被害額	○	林業被害軽減のため、特にシカの捕獲強化や食害対策の取組により、前年度と比べて被害面積、被害額ともに減少した。
<b>重点施策 3</b> 森林・林業・木材産業を 支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	14	新規就業者数	◎	高校生を対象とした集団説明会や県内外での就業セミナーの開催による林業の魅力発信と併せて、就労環境の改善を図るため、林業経営体の経営者向けの研修等に取り組んだ結果、目標を上回った。
	15	里山林整備面積	△	森づくり活動団体の担い手の高齢化や後継者不足等の影響を受け、新規の取組実績が伸び悩んでいるものの、前年度と比べて整備面積は増加した。
<b>共通施策</b> 未来技術を活用した 産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	16	労働生産性	△	新たな機械（架線集材システム）の操作等の習得に時間を要したため労働生産性は低下したが、ラジコン操作によって労働安全性の向上や労働負荷の軽減を図ることができた。
	17	労働災害発生率	◎	未来技術の導入により、検証のモデル地区では、従来の人力作業から機械作業に転換されたことで作業の安全性が向上し、労働災害は発生していない。